

登別・白老(虎杖浜)地域マリンビジョン

～観光と漁業が結びつく街～

水産物の安定供給
基盤・体制の確保

環境・生態系保全と
グリーン社会の構築

安全安心な
漁業地域づくり

漁村地域の
総合的な振興

■地域マリンビジョン協議会

【メンバー構成】

- ・いぶり中央漁業協同組合／胆振水産加工協同組合
- ・登別マリンクラブ／株式会社北海道マリンパーク
- ・一般社団法人登別国際観光コンベンション協会
- ・一般社団法人白老観光協会／北海道旅客鉄道株式会社登別駅
- ・登別まちづくり促進期成会／登別商店会／虎杖浜竹浦観光連合会
- ・登別市／白老町

●基礎データ

地域人口：1,254人

漁業生産量：5,340t

漁業生産額：1,500百万円

漁港：登別漁港(第3種漁港)、富浦漁港(第1種漁港)
鷺別漁港(第1種漁港)

港湾：白老港

《令和8年3月改訂》

地域の将来像

テーマ：持続可能な漁業の推進

水産物の安定供給基盤・体制の確保

- ・持続的な漁業生産体制の確立
- ・高度な品質・衛生管理体制と多様な流通体制の構築

- ・地域水産資源の維持
- ・地域一体での衛生管理とPRによるブランド力の強化
- ・拠点漁港における流通機能の強化

環境・生態系保全とグリーン社会の構築

- ・沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり
- ・漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進

- ・環境・生態系保全に向けた漁業者との連携
- ・藻場造成とブルーカーボンの推進

安全安心な漁業地域づくり

- ・災害時における水産物流通機能の確保
- ・増大する災害リスクに対応した漁港機能の強化

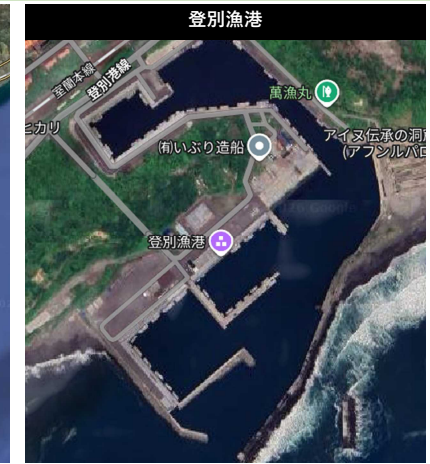
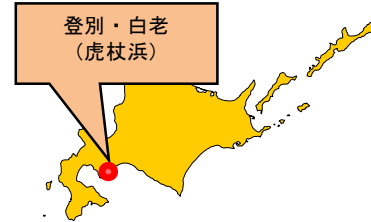
- ・防災・減災拠点としての漁港施設の活用
- ・漁港利用の効率化と環境の改善

漁村地域の総合的な振興

- ・多様な連携による地域振興
- ・地域振興を担う人づくり

- ・直売等による域内消費の推進と水産応援団の拡大
- ・観光への安定供給確立による相乗効果の発現
- ・まちづくりの一環としての漁港づくり

【位置図】



地域資源（特徴）



自然と調和する街

登別市の約70%、白老町の約75%が森林となっており、どちらも海、川、山など豊かな自然環境に恵まれており、水産業や農業（酪農・畜産業）、林業など、さまざまな一次産業がある

豊富な観光資源

地域には登別温泉やカルルス温泉、白老・虎杖浜温泉といった温泉地があり、クマ牧場や伊達時代村、マリンパークニクスなどの魅力的なテーマパークを有しており、国内や国外から多くの観光客が訪れている

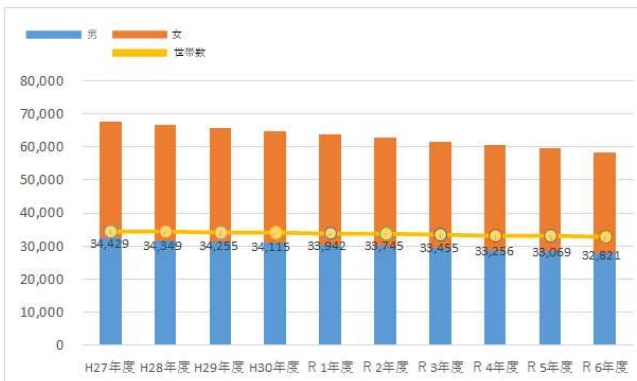
地域の資源を活かしたブランド推奨品

白老町の高品質な「虎杖浜たらこ」は全国的に知られる名産品。また、地域にある魅力を掘り起こし、地域産業活性化のために生まれた「登別ブランド推奨品」は登別のご当地グルメとして親しまれている

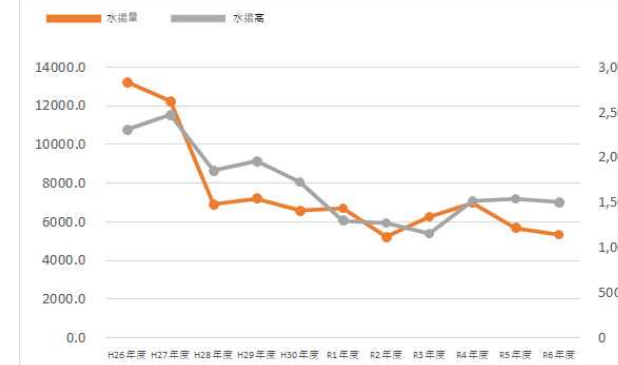
魅力ある地域のイベント

毎年8月最終週の土日で開催される「登別地獄まつり」や「地獄の谷の鬼花火」、源泉湯かけ合戦が行われる「登別湯まつり」など、魅力あるイベントが催される。また、白老牛肉まつりは例年多くの人が参加するイベントとなっている

■登別市・白老町の総人口推移（合算）



■漁獲量・額の推移



地域全体

現状

- ・漁業者人口の減少
- ・漁業者の高齢化が進行
- ・主要魚種が不漁
- ・漁獲量は減少傾向
- ・つくり育てる漁業の実施

課題

- ・水産物の安定供給基盤の確保
- ・漁業者所得の向上
- ・地元水産関連の情報発信
- ・新規漁業就業者の確保
- ・観光産業と水産業の連携

水産物の安定供給基盤・体制の確保	現状	<ul style="list-style-type: none"> 東防波堤、岸壁、用地の整備を実施中 鮮度保持の強化に向けた取組の継続 主要魚種の漁獲量の低迷 活魚施設の老朽化 水産資源の維持を目的とした種苗・稚魚の放流の実施
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 海域の環境変化への対応 衛生管理体制の確立 天候に左右されない安定供給体制の確立 漁港施設の機能向上 魚家の収入安定

衛生管理体制の強化を推進



プラスチック魚箱を活用し、衛生管理と鮮度保持の強化を図っている

流通機能の強化に向けた岸壁の改良工事実施




屋根付き岸壁に隣接して整備した荷捌施設は清潔保持のしやすい床材を使用、施設内には冷蔵設備を揃えている





推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
地域水産資源の維持	主体：漁協、市	短期：地域資源であるエゾバフンウニ等の生息状況の目視による確認・調査	漁獲量・漁獲高
		中・長期：継続的な種苗の放流を実施するとともに、種苗生産の可能性について検討を行う	
地域一体での衛生管理とPRによるブランド力の強化	主体：漁協、市、国、道	短期：既存施設（製氷施設・荷捌所等）の活用による衛生管理体制の保持 中・長期：衛生管理強化・鮮度保持に向けた取組の強化	-
	主体：漁協、市、協議会、教育関係機関	短期：胆振太平洋海域漁業振興協議会と連携し、ブランド力の強化を目的とした市内教育施設での調理実習を実施 中・長期：マツカワカレイ（ブランド名：王鰈）の販路拡大・消費の拡大	年2回を目標とする
拠点漁港における流通機能の強化	主体：漁協、市、国、道	短期：市・漁協による国・北海道への漁港施設改良予算の要望 中・長期：岸壁利用の再編による漁港施設の効率化と用地・道路の改良による陸揚げ環境の整備	-
	主体：漁協、市、国、道	短期：活魚施設の更新に向けた検討 中・長期：衛生・流通機能の強化の推進	-

■ 鮮度保持の強化

■ 地域水産資源の維持に向けた取組

■ ブランド力強化の取組（市内教育施設での調理実習）

製氷施設の海水氷化



製氷・貯氷施設の整備



マツカワカレイの稚魚放流の様子



講師による見本



調理実習の様子



登別市公式
Youtube



環境・生態系保全とグリーン社会の構築

【沿岸海域の環境・生態系保全活動の広がり】
【漁港・漁村地域におけるカーボンニュートラルの推進】

登別・白老(虎杖浜)地域マリンビジョン

環境・生態系保全とグリーン社会の構築	現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動やウニ等の食害に伴う藻場の減少 ・ 漁業環境の保全を目的とした植樹・清掃活動の実施 ・ 藻場再生に向けた養殖ロープの設置 ・ ホッキ空貝の処理の実施
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全に向けたキタムラサキウニ等の積極的な漁獲 ・ 継続的な藻場の保全活動の実施 ・ 藻場再生・造成の継続 ・ カーボンニュートラルに向けた温室効果ガス削減の取組の推進

お魚殖やす植樹活動



漁業環境の保全や漁港漁場における遊漁者との共存を目的に、漁港清掃等の活動を地域ぐるみで実施。環境保全だけではなく、漁業者と遊漁者の交流機会を促進し、信頼関係の構築を図っている

漁業者による漁港清掃

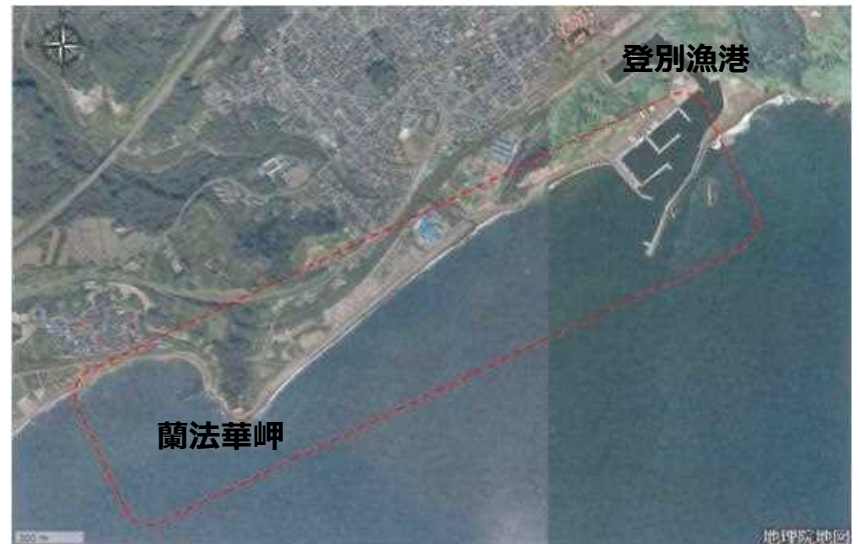


漁港清掃の取組は北海道漁港漁場協会主催の「令和7年度漁港愛護優良団体」に選出された

推 進 方 策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
環境・生態系保全に向けた漁業者との連携	主体：漁協、市、遊漁者	短期：漁業者や市民団体と連携した漁港清掃・植樹活動の実施	年2回の実施を目標とする
		中・長期：沿岸海域の環境・生態系の保全	
藻場造成とブルーカーボンの推進	主体：漁協、市、研究機関、企業	短期：循環型藻場再生の構築に向けた藻場再生事業の継続。ブルーカーボン・クレジット化に向けた調査	蘭法華岬から登別漁港までの沿岸
		中・長期：藻場の保全・回復と将来的な藻場造成海域の拡大	

■ 藻場造成に取り組むべき海域



■ 令和7年度実施海藻分布状況調査



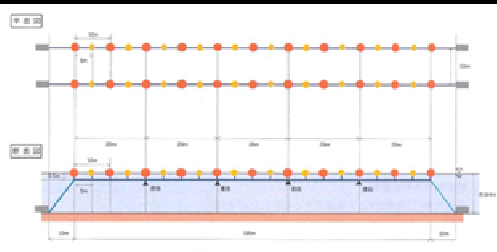
計量魚探による海藻分布状況の観察時に抽出したエリアにて潜水作業を実施。海藻の繁茂状況や底質の状況を水中カメラにて記録を行った。

■ 河口周辺の海底写真▶

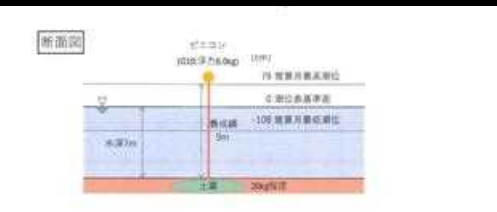


■ 養殖ロープの設置

▼ 延縄式養殖ロープ



▼ 縦縄式養殖ロープ



■ ホッキ空貝の処分量

年度	ホッキ空貝処分量
令和2年度	10t
令和3年度	30t
令和4年度	37t
令和5年度	41t
令和6年度	11t

安全・安心な漁業地域づくり

【災害時における水産物流通機能の確保】
【漁業従事者の労働安全対策】

登別・白老(虎杖浜)地域マリンビジョン

安全・安心な漁業地域づくり

現状

- ・岸壁の耐震・耐津波性能の強化に向けた要望
- ・登別漁港BCPを策定済、机上訓練の実施
- ・水難救助訓練の合同実施(登別・虎杖浜・白老)

課題

- ・大規模自然災害に備えた耐震強化岸壁の整備
- ・BCP計画の実効性の確保、災害時における各魚種の生産及び流通経路の復旧
- ・漁業者の安全確保に向けた環境整備

水難救助訓練の合同実施



(1) 活動の内容
室蘭海上保安部の指導を受けて、漁業者を中心に構成された、いぶり中央漁業協同組合3地区救難所で海難救助訓練を実施している

(2) 事業効果
漁業者の海難防止意識の高揚
事故発生時の迅速な救助活動の実施を可能にする

推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
防災・減災拠点としての漁港施設の活用	主体：市・町・漁業(登別漁港BCP推進部会)	短期：漁業関係者との机上訓練の実施・登別漁港BCP計画の検証 中・長期：関係機関との協議を実施し、随時BCP計画の見直しを行う	大規模災害時の漁業活動の早期再開を目標とする
漁港利用の効率化と環境の改善	主体：漁協、市、国、道	短期：市・漁業者による国・北海道への漁港施設改良要望による改良予算の確保 中・長期：老朽化施設等の改修による漁業者の作業環境改善と安全確保の推進を図る	-

■津波ハザードマップによる津波災害警戒区域



■地点別の想定される津波の沿岸最大推移

- (1) 想定する津波
本計画において、最大クラスの津波は、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震による津波を想定する。
- ア 津波の設定
- 1 想定津波 北海道太平洋沿岸及び東北地方沿岸に至る幅
 - 2 構造物 効果無し(防波堤、防潮堤、河川堤防等の施設が全て無効と設定)
- イ 想定される津波の最大遡上高

地点	最大津波高	影響開始時間		(参考)	
		±20cm	-20cm	第一波	最大波
栄町	9.4m	9分	33分	40分	40分
大和町	10.2m	11分	33分	41分	41分
幌別町	11.2m	10分	32分	42分	42分
幸町	11.4m	11分	33分	42分	42分
登別漁港	9.1m	9分	31分	39分	39分

■BCP計画の実効性確保に向けた取組

BCP机上訓練の様子



漁村地域の総合的な振興

【都市と漁村との交流促進】
【地産地消に向けた取組の推進】

登別・白老(虎杖浜)地域マリンビジョン

漁村地域の総合的な振興

現状

- ・登別・白老（虎杖浜）地域における水産物の直売会の実施
- ・水産物消費拡大推進事業実行委員会におけるInstagramによる情報発信の実施
- ・登別温泉調理師「登庖会」への地元食材の提供と、勉強会の開催
- ・つくり育てる漁業の意識造成に向けた総合学習の実施
- ・白老町におけるホッケの陸上養殖事業の実施

課題

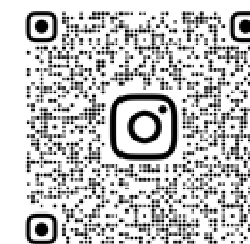
- ・域内水産物の高付加価値の推進
- ・水産物や加工品等の販売等、観光業との連携
- ・宿泊施設等への地場産食材の安定供給
- ・漁村地域の活性化
- ・漁港施設の利活用
- ・直売等による域内消費の拡大に向けた海業の推進

既存施設を活用したPRの強化を推進



令和5年度3月1日から供用開始となった登別観光交流センター「ヌプル」
令和7年度には当該施設で全道水産担当課長会議が開催された。
今後も既存施設を活用しながら、登別・白老地域の漁業のPR強化を図る

水産物消費拡大推進事業実行委員会Instagram



@ASAICHI.YUICHI_JF.IBURICHUOU

朝市・夕市の開催状況

年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
回数	6回	6回	6回	6回	1回	2回	2回	6回	6回	5回
来場者	700人	750人	900人	950人	50人	300人	230人	530人	590人	860人
備考					コロナ禍	コロナ禍	コロナ禍			SNS開設



推進方策

取組内容	取組体制	スケジュール	数値目標
直売等による域内消費の推進と水産応援団の拡大	主体：漁協、市	短期：登別・白老（虎杖浜）地域水産物の直売会実施・SNS等を活用したPRの推進	年間5回を実施目標とする
		中・長期：域内消費の推進と地域の活性化を図る	
観光への安定供給確立による相乗効果の発現	主体：漁協、市、調理師会、観光協会	短期：登別温泉調理師「登庖会」への地元食材の提供による料理研究会等の実施、市民向け振る舞いイベントの実施	年2回の実施目標とする
		中・長期：観光への安定供給に向けた地域連携の推進、宿泊施設等での活用に向けた検討の実施	
まちづくりとしての一環の漁港づくり	主体：漁協、市教育関係機関（小学校等）	短期：漁業体験による総合学習の推進を目的として、市内小学校を対象にサケの採卵・人工授精体験や放流体験の受入実施	年4回の実施目標とする
		中・長期：体験学習を通じた「つくり育てる漁業」の意識造成を図る	

■ 朝市の様子



▼登別漁港における朝市の様子

朝市・夕市の取組は令和6年度及び令和7年度の「北海道マリンビジョンコンテスト」の優良賞に選出されている

■ 観光への相乗効果の発現に関する取組



▼地元食材を活用した料理研究会の様子



▼調理師会が調理した料理

■ まちづくりとしての一環の漁港作りに関する取組



▼人工授精体験の様子



▼放流体験の様子